

F-31 Pre-Home Economics から Post Home Economics に至るまで
の連続性についての私見
大阪市大家政 上林博雄

目的：家政学が時代的に変革してきたことは既知の事実である。^(注)しかし後・家政学が前・家政学より家政学としての連続性をそっていることは見逃され勝ちである。本発表では文献にそって、この連続性について構造的な一解釈を示したい。

本論：家政学の発展の段階を論じるのに、その基礎的科学的相違や研究対象の変化や、さらに社会政策との関連において、また家庭管理・経営論の発展における諸条件等をふまえて行われる。ここでは公的な宣言等を段階づけに用いたい。すなわち

- 1) 前・家政学 — Home-making や Housekeeping に直結する Objectives のみがある。
- 2) 家政学 — 上記の Objectives に Philosophy (広義の定義) が明確にされた (1902)。
- 2') 全上 — Philosophy は殆んど同称であるが Objectives が社会的に拡大された (1964, AHEA)。
- 3) 後・家政学 — 本質的に Philosophy は変わらぬが、Objectives から個々の家庭管理の面が省かれ社会的要請に応じている (1965, 1969~, Pen. State Univ. および Cornell Univ. 等のアナウンスメント)。

結論：以上より前・家政学から後・家政学に至るまでの連続性の一面を明らかにすることができよう。

注記：拙稿、家政学について認識と脱家政学への動き— 概と日本の大学の場合—、学部紀要 Vol. 20, 1972。

後記：国際家政学会の定義 (1972) は 2') より後進的なふうに見られる。